

breaking a mirror

— 鏡が割れると7年間不幸が続く —

この不吉な迷信をなぞるかのように、
謎の訪問者たちが
ヒロイン一家を浸食しはじめる。
街なかで遭遇した〈自分〉は
いったい何者なのか？
もう1人の〈自分〉と対面したときに
明らかになる、衝撃のラストとは？



イギリス映画界の新鋭! 世界的フォトグラファー、ショーン・エリスが 「フローズン・タイム」の次に仕掛ける、美しきシンメトリー・サスペンス。

ロンドンに暮らすX線技師のジーナ。彼女は父親の誕生日に、恋人のステファン、弟のダニエル、ダニエルの恋人ケイトと一緒に父親の家を訪問する。すると、楽しい宴の真っ最中に、大鏡が突然激しく割れ落ちる。5人は笑いながら「鏡が割れると7年間不幸が続く」という迷信を口に出すが、鏡が彼らにもたらした不幸は、その迷信以上のものだった――。

翌日、ジーナは職場からの帰り道、自分と同じ車を運転する〈自分〉とすれ違う。衝動的に車の後をつけて彼女のアパートに侵入すると、彼女は自分とまるっきり同じ部屋に暮らしていた。もう1人の〈自分自身〉が存在していることに困惑したジーナは、その帰路に不注意から交通事故に遭遇、一部の記憶をなくしてしまう。また、恋人のステファンに、〈別人〉のような違和感を覚えるようになる。カウンセラーと共に記憶を掘り下げていながら、ジーナは再びもう1人の自分のアパートに呼び寄せられるが、そこには、衝撃の真実が隠されていた――。

「眠るときに鏡に自分を映すと悪夢を見る」「丑三つ時に合わせ鏡をすると、自分の死に顔が見える」など、鏡にまつわる迷信は日本にもいくつかある。それは、〈自分〉というもっとも未知なものを映し出す〈鏡〉という存在に対する畏れが生んだもの。その〈鏡〉をしかけに、計算し尽くされた構図、縦横無尽にちりばめられた伏線やキーワード、鬱々としたロンドンの風景、不安感をおおる音響が編み上げるサスペンスだ。

手がけたのは数々の一流ファッション誌で写真家として活躍し、長編デビュー作『フローズン・タイム』で独自のビジュアルセンスを発揮したショーン・エリス。本作でも〈鏡〉を境界線にしたパラレルなビジュアルイメージを、均整の取れた美貌のレナ・ヘディ（『300』）をミューズに迎え、構築する。また、国際派俳優メルヴィル・ブポー（『ぼくを葬る』『ゼロ時間の謎』）、名優リチャード・ジェンキンスらが緻密な演技で支えている。

ブローケン

監督・脚本：ショーン・エリス / 製作：レナ・ヘディ、リチャード・ジェンキンス、ミシェル・ダンカン、アシエル・ニューマン、メルヴィル・ブポー他
2008年 / イギリス・フランス / カラー / シネマスコープ / ドルビー / SRD / 88分 / 原題：THE BROKEN
提供：アミューズソフトエンタテインメント、博報堂DYメディアパートナーズ、熱帯美術館 / 配給：リベロ
© 2008 LEFT TURN FILMS / THE BROKEN FILMS ALL RIGHTS RESERVED. www.broken-movie.jp PG-12



今秋、ロードショー

特別鑑賞券発売中

一般¥1,500(税込) / 当日一般¥1,800の処

劇場窓口にてお買い求めの方に
紫外線で色が変わる、
オリジナルミラープレゼント(数量限定)



国内最大級のビッグスクリーン

シアトル SHINJUKU
タイムズスクエア

TEL: 03 (5361) 1937

全席指定(初回を除く)

JR新宿駅新南口すぐ
タカシマヤ
タイムズスクエア12F

www.cinemabox.com